

薬剤部 DI ニュース

貼り薬について（経皮吸収型製剤）

貼り薬には大きく分けて2つのタイプがあります。

- ・痛みや炎症を和らげる湿布やテープなど、貼った場所だけに作用する貼り薬（局所作用）
- ・貼った場所から薬の成分が皮膚を通して血液に吸収され、全身（貼った場所以外の部位）に働くように設計された薬（全身作用）

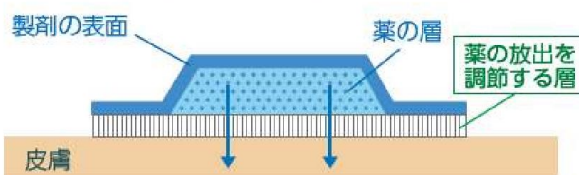
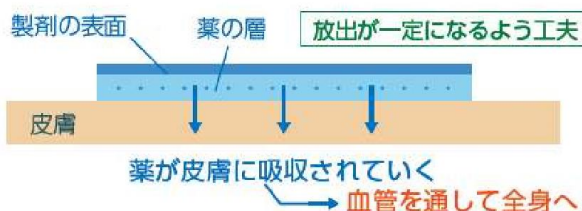


今回は「経皮吸収型製剤」と呼ばれる後者のタイプの貼り薬について述べます。

【なぜ皮膚に貼るだけで効果があるのか？】

経皮吸収型製剤は、製剤にいろいろな工夫がされていて、一定の速度、量で、徐々に薬が皮膚から吸収されると、皮膚の下の毛細血管から速やかに吸収され、薬は全身に運ばれます。そのため、飲み薬と同じように、薬は貼った場所だけではなく、全身に効果が発揮されるのです。

経皮吸収型製剤のイメージ



【優れている点】



Good

- ・貼るだけでいいので、使用方法が簡単。
- ・皮膚から血管に薬が吸収され、そのまま全身に運ばれるので、飲み薬のように薬が全身に運ばれる前に肝臓などで分解されない。（肝初回通過効果を受けにくい）
- ・飲み薬に比べて胃腸などへの副作用が少ない。
- ・貼っている間中、一定量の成分が常に体内に入るため、安定した効果が期待できる。
- ・薬を剥がせば、直ちに使用を中止することができる。

【注意する点】



Bad

- ・決められた貼り方（貼る枚数、場所、時間など）を守る必要がある。
- ・貼る量によって、血液中の薬の濃度が変動するので、自己判断での調節は危険である。
- ・肌にピッタリと貼らないと十分な効果が得られないことがある。
- ・皮膚への刺激を避けるために、貼り替える場所は決められた場所の範囲内で少しずつ場所を変えて貼ったほうが良い。
- ・傷口や皮膚病（湿疹など）のあるところ、汗のかきやすい場所、軟膏などを塗ったところ、毛が濃い部分、ベルトライン（衣服との摩擦で剥がれることがある）には貼らない。

表) 種々の経皮吸収型製剤(全身作用薬)の早見表

★:院内採用薬(2019年8月時点)

分類	成分名	主な商品名	用法用量	貼り直し*	入浴	切断	MRI
抗アレルギー薬	エメダスチン	アレサガテープ	通常、1回4mg(24時間毎に貼り替える) 胸部・上腕部・背部・腹部のいずれかに貼付。 *症状に応じて1回8mgに増量可。	×	×	×	臨床データなし。 検査前に剥がすことを推奨
女性ホルモン製剤	エストラジオール	エストラーナテープ	通常、成人に対し0.72mg。下腹部・臀部のいずれかに貼付2日毎(48時間毎)に貼り替える。	×	○	×	検査前に剥がすことを推奨
降圧薬	ビソプロロール	ビソノテープ★	通常1日1回8mg 最大:1日8mg 胸部・上腕部・背部に貼付(24時間毎に貼り替える) 腎機能低下者:1日4mgより開始	○	○	○	検査部位であれば剥がす
狭心症治療薬	硝酸イソソルビド	フランドルテープ (硝酸イソソルビドテープ)★	1回1枚(40mg) 胸部・上腹部・背部に貼付 (24 or 48時間ごとに貼り替え)	○	×	○	検査部位であれば剥がす
		ニトロダームTTS	1日1回1枚	×	○	×	検査時は必ず剥がす。 貼付部位に火傷を引き起こす恐れがある。
		ミニニトロテープ	胸部・腰部・上腕部に貼付 *休業を要する場合には他剤との併用下で 徐々に投与量を減じる *効果不十分な場合は1回2枚に増量。	×	×	○	問題なし。主治医へ確認
		メディトランステープ		×	○	×	
		パソレーターテープ		×	×	○	
急性心不全に適用あり		ミリステープ	1回1枚、1日2回(12時間毎に貼り替え) 胸部・上腹部・背部・上腕部・大腿部に貼付	○	○	○	
気管支拡張薬 気管支喘息治療薬	ツロブテロール	ホクナリントテープ (ツロブテロールテープ)★	通常1日1回2mg(24時間毎に貼り替える) 胸部・上腕部・背部に貼付 小児:6ヵ月~3歳未満:0.5mg/日 3~9歳未満:1mg/日 9歳以上:2mg/日	○	○	×	検査部位であれば剥がす
パーキンソン病用薬	ロチゴチン	ニュープロパッチ	【パーキンソン病】 通常、1日1回4.5mgから開始。 肩・上腕部・腹部・側腹部・臀部・大腿部のいずれかの正常な皮膚に貼付。(24時間毎に貼り替える) 以後経過を観察しながら1週間毎に1日量として4.5mgずつ増量 維持量:標準1日量9mg~36mg *1日量は36mgを超えないこと。 【特発性レストレスレッグス症候群】 通常、1日1回2.25mgから開始。 以後経過を観察しながら1週間以上の間隔をあけて1日量として2.25mgずつ増量 維持量:標準1日量4.5mg~6.75mg *1日量は6.75mgを超えないこと。	×	○	×	検査時には必ず剥がす。 支持体にアルミニウムが含まれるため、貼付部位に火傷を引き起こすことがある
抗認知症薬	リバスタグミン	イクセロンパッチ	通常、1日1回4.5mgから開始。 背部・上腕部・胸部のいずれかの正常で健康な皮膚に貼付(24時間毎に貼り替える) 原則として4週毎に4.5mgずつ増量。 維持量として1日1回18mgを貼付する。 *患者の状態に応じて、1日1回9mgを開始用量とし原則として4週後に18mgに増量することも可。	×	×	×	臨床データなし。 検査前に剥がすことを推奨
		リバスタッチ					
麻薬性鎮痛剤	フェンタニル	フェントステープ★	通常、成人に対し胸部、腹部、上腕部、大腿部等に貼付1日(約24時間)毎に貼り替える *本剤は、オピオイド鎮痛剤から切り替えて使用する *初回貼付量換算表は添付文書参照	×	○	×	臨床データなし。 検査前に剥がすことを推奨 *貼付部位の温度上昇により吸収率上昇の恐れあり
		デュロテップMTパッチ	3日(約72時間)毎に貼り替える				
		ワンデュロパッチ	1日(約24時間)毎に貼り替える				
禁煙補助薬	ニコチン	ニコチネルTTS	1日1回1枚24時間貼付 *最初の4週間はTTS30を使用 *次の2週間はTTS20を使用 *最後の週はTTS10を使用 *10週間を超えて使用しない	×	○	○	検査時は必ず剥がす。 貼付部位に火傷を引き起こす恐れがある。

*貼り直しの項目は、製剤が剥がれてしまった場合に同じものを再貼付しても大丈夫であるか調べています。○は再貼付可。×の場合は新しいものに変えて貼付する。

【引用文献】

各医薬品の添付文書・インタビューフォーム、久光製薬株式会社:学術部(お客様相談室)、エストラーナテープ使用説明書、トーアエイヨー株式会社:ビソノテープ Q&A、トーアエイヨー株式会社:フランドルテープ Q&A、田辺三菱製薬株式会社:くすり相談センター、キョーリンメディオ株式会社:学術部、協和キリン株式会社:くすり相談窓口、株式会社三和化学研究所:コンタクトセンター、日本化学株式会社:医薬品情報センター、ホクナリントテープ FAQ、大塚製薬株式会社:医薬品情報センター、ノバルティスファーマ株式会社:イクセロンパッチ FAQ、ノバルティスファーマ株式会社:ノバルティスダイレクト、アルフレッサファーマ株式会社:ニコチネル TTS「患者向け医薬品ガイド」